

第1回岐阜県リニア中央新幹線活用戦略改定に係る有識者懇談会 委員からの意見と対応

番号	委員	意見	対応			
			骨子 素案 反映	反映箇所		具体的な記載（骨子素案）
				柱	具体的な施策のイメージ	
1－1	小川	訪れてもらうことは入口に過ぎず、そこから長く滞在してもらい消費を促すとともに、再訪してもらうという視点が必要。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	③ 周遊促進、宿泊の創出	まずは日帰り来訪を促す取組を推進し、次に県内での滞在時間を増やす取組、さらに宿泊環境の整備に繋げるなど、段階的な取組を推進するとともに再訪してもらうような交流人口拡大のための取組を推進
1－2	小川	連携も重要だが、突出したスポットに磨き上げることも重要。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	① 地域資源（自然や食、伝統文化など）の発掘・選定・強化	県内市町村や事業者等と緊密に連携し、山や川、温泉などの豊かな自然、飛騨牛や鮎、栗きんとんなどの食、中山道や地芝居、戦国武将、祭りなどの歴史・伝統文化、広域からの誘客が見込まれる音楽フェスなどのイベントなど、岐阜県ならではの地域資源の磨き上げや情報発信を推進
1－3	小川	データセンターの誘致はよい考えである。データセンターの立地に必要な要素として、電力、水、敷地の広さ、災害リスクの低さ、通信インフラの5つがあるが、岐阜県にデータセンターが来ていないのは、通信インフラの部分が弱いからだと思われるため、そこに投資して誘致できるとよい。	○	2 首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまち	② 先端産業・行政機能等の誘致	リニア開業を見据え、「東濃クロスエリア本社機能移転推進会議」をはじめ、官民連携により、大容量で安定した通信インフラの整備等を通じて首都圏や関西圏からの本社機能移転、研究機関・サテライトオフィス・データセンター等の誘致を推進
2－1	金室	リニア岐阜県駅を起点とする発想だけでなく、東京方面からのリニア利用者、名古屋駅からの来訪者、中部国際空港からの訪日客、既存鉄道・道路等を利用する来訪者など、複数のゲートウェイから同駅周辺へどう結節させるかという視点が重要である。そのうえで、ゲートウェイごとの想定客層や移動経路、周遊テーマを整理し、ターゲットに応じた対策を検討する必要がある。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	③ 周遊促進、宿泊の創出	リニア岐阜県駅を起点とすることに加え、名古屋駅、岐阜羽島駅、空港、既存鉄道・道路など様々なゲートウェイから訪れる観光客層、移動経路、周遊テーマを整理し、ターゲットに応じた観光誘客を推進
			○	3 まちの魅力を高める基盤整備	③ リニア駅等を起点とした公共交通ネットワークの充実	リニア開業により生じるリニア岐阜県駅、名古屋駅、岐阜羽島駅などを起点とした新たな人流や交通ニーズへの対応及び地域を支える公共交通の維持・確保のため、自動運転など新技術の活用や広域バス路線の創出など、リニア岐阜県駅からの二次交通を含めた公共交通の効率化及び利便性の向上を推進
2－2	金室	海外から来られる方にとっては、県域は関係ないため、他県とも連携し、面としてブランディングしていく必要がある。	○	（戦略の基本的な考え方）	（※他県連携の推進）	国やリニア中間駅設置県などの他の自治体、特に隣接する長野県木曽地域や愛知県西三河地域などと積極的に連携を図る
2－3	金室	宿泊施設の不足は課題であるが、大規模宿泊施設の誘致に限らず、地域内に点在する小規模宿泊施設を一体的に活用する分散型ホテルの考え方や、セントラルキッチン、清掃、予約管理等のバックヤード機能の共有により、コンパクトな宿泊施設の運営を可能としている地域事例も参考になる。リニア開通工事期間中の見学需要などを契機に、まずは日帰り来訪を促し、その後、滞在時間の延長や宿泊環境の整備へとつなげるなど、段階的な誘客・受入戦略があるとよい。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	③ 周遊促進、宿泊の創出	まずは日帰り来訪を促す取組を推進し、次に県内での滞在時間を増やす取組、さらに宿泊環境の整備に繋げるなど、段階的な取組を推進するとともに再訪してもらうような交流人口拡大のための取組を推進
3－1	倉内	東濃・可茂圏域から県内に広げていくには、リニア岐阜県駅からどこに、どうやって行ってもらいたいかを考えるべき。下呂は最もポテンシャルがありそこへのアクセスのため、広域の幹線バス等の二次交通の整備が非常に重要。	○	3 まちの魅力を高める基盤整備	③ リニア駅等を起点とした公共交通ネットワークの充実	リニア開業により生じるリニア岐阜県駅、名古屋駅、岐阜羽島駅などを起点とした新たな人流や交通ニーズへの対応及び地域を支える公共交通の維持・確保のため、自動運転など新技術の活用や広域バス路線の創出など、リニア岐阜県駅からの二次交通を含めた公共交通の効率化及び利便性の向上を推進
3－2	倉内	普通列車しか停車しないＪＲ美乃坂本駅をどのように活用し、どういった機能を持たせるかも非常に重要。	○	3 まちの魅力を高める基盤整備	① リニア岐阜県駅及び駅周辺の整備	リニアで訪れた人が「別世界」に來たと感動するような、この地域らしい豊かな自然と歴史・文化を生かした景観を有するとともに、隣接するＪＲ美乃坂本駅の機能強化など、機能的で利便性の高いリニア岐阜県駅及び駅周辺の整備を推進
			○	3 まちの魅力を高める基盤整備	③ リニア駅等を起点とした公共交通ネットワークの充実	リニア開業により生じるリニア岐阜県駅、名古屋駅、岐阜羽島駅などを起点とした新たな人流や交通ニーズへの対応及び地域を支える公共交通の維持・確保のため、自動運転など新技術の活用や広域バス路線の創出など、リニア岐阜県駅からの二次交通を含めた公共交通の効率化及び利便性の向上を推進
3－3	倉内	リニア岐阜県駅から、観光や宿泊をして、岐阜羽島駅まで周遊させることは県として非常に効果が高い。濃飛横断自動車道ができた時に、どうやって回ってもらうのかを同時に考えていく必要がある。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	③ 周遊促進、宿泊の創出	歴史・伝統文化、産業観光を中心とした観光誘客について、自然を生かしたアウトドア体験と連動させながら、通年楽しめるような広域周遊・体験型観光プログラムを開発し、関係事業者等と連携した一体的なプロモーションを推進
			○	3 まちの魅力を高める基盤整備	③ リニア駅等を起点とした公共交通ネットワークの充実	リニア開業により生じるリニア岐阜県駅、名古屋駅、岐阜羽島駅などを起点とした新たな人流や交通ニーズへの対応及び地域を支える公共交通の維持・確保のため、自動運転など新技術の活用や広域バス路線の創出など、リニア岐阜県駅からの二次交通を含めた公共交通の効率化及び利便性の向上を推進
3－4	倉内	リニア中間駅を持つ他の自治体との連携を検討していくとよい。	○	（戦略の基本的な考え方）	（※他県連携の推進）	国やリニア中間駅設置県などの他の自治体、特に隣接する長野県木曽地域や愛知県西三河地域などと積極的に連携を図る
3－5	倉内	リニアの関連工事で県内に入っている人もいるため、工事が終わってもそこに住んでいただけるとよい。	○	2 首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまち	① 関係人口の創出、移住・二地域居住の推進	リニア関連工事のため県内に住まわれた方々が、工事後も岐阜県に残っていただけるような取組を推進

第1 回岐阜県リニア中央新幹線活用戦略改定に係る有識者懇談会 委員からの意見と対応

番号	委員	意見	対応			
			骨子 素案 反映	反映箇所		具体的な記載（骨子素案）
				柱	具体的な施策のイメージ	
4－1	竹内	個々の観光資源を更に磨いていく必要がある。例えば中津川市の明治座という芝居小屋では、地歌舞伎だけでなく音楽イベントも開催される。こういうものもブラッシュアップできると思う。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	❶ 地域資源（自然や食、伝統文化など）の発掘・選定・強化	県内市町村や事業者等と緊密に連携し、山や川、温泉などの豊かな自然、飛騨牛や鮎、栗きんとんなどの食、中山道や地芝居、戦国武将、祭りなどの歴史・伝統文化、広域からの誘客が見込まれる音楽フェスなどのイベントなど、岐阜県ならではの地域資源の磨き上げや情報発信を推進
4－2	竹内	宿泊施設は足りないというより、無いのだと思う。県内では、通年で観光が成り立たないような場所が多いので、宿泊施設を充実させていくことは難しい。岐阜県の宿泊をどう作っていくのかという視点が計画に盛り込まれるとよい。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	❸ 周遊促進、宿泊の創出	まずは日帰り来訪を促す取組を推進し、次に県内での滞在時間を増やす取組、さらに宿泊環境の整備に繋げるなど、段階的な取組を推進するとともに再訪してもらうような交流人口拡大のための取組を推進
4－3	竹内	リニア岐阜県駅や中部総合車両基地の工事現場は、高度成長期を思わせる大規模開発であり、ぜひ小学生などに見てもらおうとよい。工事はすべてうまくいっているわけではないので、そういった困難を理解し、どう克服していくかについて、中・高校生に学んでもらいたい。気運を醸成するためには、こういった小・中・高校生の視察を充実させるとよい。	○	【共通認識】 県民とともに描く未来への機運づくり	❷ 県民とともにまちづくりを考える機会の創出	リニア建設現場の見学会や開業効果をテーマとした出前講座、リニアを活用したまちづくりを考えるシンポジウムの開催、小・中学生向けのリニアへの理解を深める副読本などの作成など、特に若い世代のシビックプライドを高める取組を推進
4－4	竹内	車両基地ができることが岐阜県の最大の特徴。車両基地、駅、道路の開発全体を通して、開通まで、関心を集めていくための取組を進めるべき。	○	【共通認識】 県民とともに描く未来への機運づくり	❷ 県民とともにまちづくりを考える機会の創出	リニア建設現場の見学会や開業効果をテーマとした出前講座、リニアを活用したまちづくりを考えるシンポジウムの開催、小・中学生向けのリニアへの理解を深める副読本などの作成など、特に若い世代のシビックプライドを高める取組を推進
5－1	谷口	県が公表している「『リニア岐阜県駅を核とした東濃・可茂圏域のまちづくり』の具体的な方向性」に、子育てや医療が入っているのはよい。	○	2 首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまち	❷ 医療・介護体制の整備	将来の医療需要を見据えた医療提供体制の構築、医師偏在対策の促進を図るとともに、介護現場の人材の確保・生産性の向上を推進
			○	2 首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまち	❸ 子育て支援体制の整備	保育所や放課後児童クラブの待機児童解消のための人材確保対策など、安心して子育てができる体制整備を推進 小・中学生等への木育プログラムの実施や、県外も含めたりニア沿線市町村等への森林環境教育プログラムの提供、県内進出企業と連携したぎふ木育指導者の活用など、「ぎふ木育」の取組を推進
5－2	谷口	中津川市や恵那市、伊那市、飯田市は文化的に似ているところがあるので、広域的な視点で連携していけるとよい。	○	（戦略の基本的な考え方）	（※他県連携の推進）	国やりニア中間駅設置県などの他の自治体、特に隣接する長野県木曽地域や愛知県西三河地域などと積極的に連携を図る
5－3	谷口	県民参加の視点が必要。大人だけでなく、小学生など次代を担う世代のシビックプライド醸成につなげるため、教育委員会と連携して、副読本の作成や工事現場の見学ができるとよい。	○	【共通認識】 県民とともに描く未来への機運づくり	❷ 県民とともにまちづくりを考える機会の創出	リニア建設現場の見学会や開業効果をテーマとした出前講座、リニアを活用したまちづくりを考えるシンポジウムの開催、小・中学生向けのリニアへの理解を深める副読本などの作成など、特に若い世代のシビックプライドを高める取組を推進
6－1	三井	2024年の中津川の人流データでは、前泊は名古屋やセントレアで、後泊は下呂や高山となる傾向。台湾の方は馬籠宿に寄るがそのまま通過してしまう。オーストラリア、スペイン、イタリアなどは中津川に泊まっているが、宿泊施設が足らず、すべてを賄いきれていない。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	❸ 周遊促進、宿泊の創出	まずは日帰り来訪を促す取組を推進し、次に県内での滞在時間を増やす取組、さらに宿泊環境の整備に繋げるなど、段階的な取組を推進するとともに再訪してもらうような交流人口拡大のための取組を推進
6－2	三井	リニアが開業した時に、宿泊も周遊もできるようにしていく必要がある。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	❸ 周遊促進、宿泊の創出	歴史・伝統文化、産業観光を中心とした観光誘客について、自然を生かしたアウトドア体験と連動させながら、通年楽しめるような広域周遊・体験型観光プログラムを開発し、関係事業者等と連携した一体的なプロモーションを推進 まずは日帰り来訪を促す取組を推進し、次に県内での滞在時間を増やす取組、さらに宿泊環境の整備に繋げるなど、段階的な取組を推進するとともに再び訪れてもらえるような取組を推進
7－1	森下	岐阜のブランド、売りを明確化すべき。観光は関係者が大変多く、それぞれが違うイメージを持っていると前進しない。大きなテーマでよいので掲げ、関係者皆で同じ方向に向かっていくことが重要。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	❶ 地域資源（自然や食、伝統文化など）の発掘・選定・強化	歴史や伝統文化、地場産業を主なテーマとした「東美濃歴史街道協議会」など、共通のテーマのもと、関係者が一体となった取組を推進
			○	1 国内外から訪れてもらえるまち	❸ 周遊促進、宿泊の創出	リニア岐阜県駅を起点とすることに加え、名古屋駅、岐阜羽島駅、空港、既存鉄道・道路など様々なゲートウェイから訪れる観光客層、移動経路、周遊テーマを整理し、ターゲットに応じた観光誘客を推進
7－2	森下	観光客の数と観光の質のバランスをうまくとっていくことが重要。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	（方向性）	そのため、県内各地に点在する自然や食、伝統文化などのここでしか体験できない魅力を更に磨き上げるとともに、国内外に発信するなど、観光の質と観光客数のバランスを図りながら取組を推進するほか、交通ネットワークで各地を結び、周遊性を持たせていく取組を推進。
7－3	森下	体験観光は従来の見る観光と比べると、手間がかかるため人手と人材が必要になる。「『リニア岐阜県駅を核とした東濃・可茂圏域のまちづくり』の具体的な方向性」の「2 首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまち」とリンクするが、人材の育成・確保も同時に進める必要がある。	○	1 国内外から訪れてもらえるまち	❷ 農林業体験やアウトドア活動を楽しむ環境整備	体験型観光に携わる人材の育成・確保を推進